

モニター校アンケートの分析結果

ハマ弁事業開始から2年が経過する中、喫食率の向上に向けて平成30年夏休み明けから、ハマ弁のリニューアルを実施し、メニューを刷新して献立を充実するとともに、モニター校での当日注文の試行実施や一括注文の導入など利便性向上の取組を進めている。リニューアルの効果もあり、喫食率は徐々に伸びてはいるが、直近となる平成31年3月の喫食率は3.1%と依然として厳しい状況である。

今回、昼食の現状やリニューアル後のハマ弁の利用状況などを把握し、ハマ弁の改善や今後の中学校昼食の充実を図る上で参考とするため、モニター校でアンケートを実施したので、その結果を次のとおりまとめる。

1 調査概要

(1) モニター校 11校

鶴見中学校、栗田谷中学校、横浜吉田中学校、若葉台中学校、根岸中学校、大道中学校、日吉台中学校、樽町中学校、秋葉中学校、上郷中学校、中田中学校
※仲尾台中学校はアンケートの調査項目が異なるため結果に含まない。

(2) 対象者

生徒、保護者：各学年で1クラス抽出し実施
教職員：全員

(3) 回答数

生徒：985名 保護者：599名 教職員：265名

(4) 回収率

生徒：985/2,156名（45.6%） 保護者：599/1,660名（36.0%）
教職員：265/413名（64.2%）

(5) 有効回答数

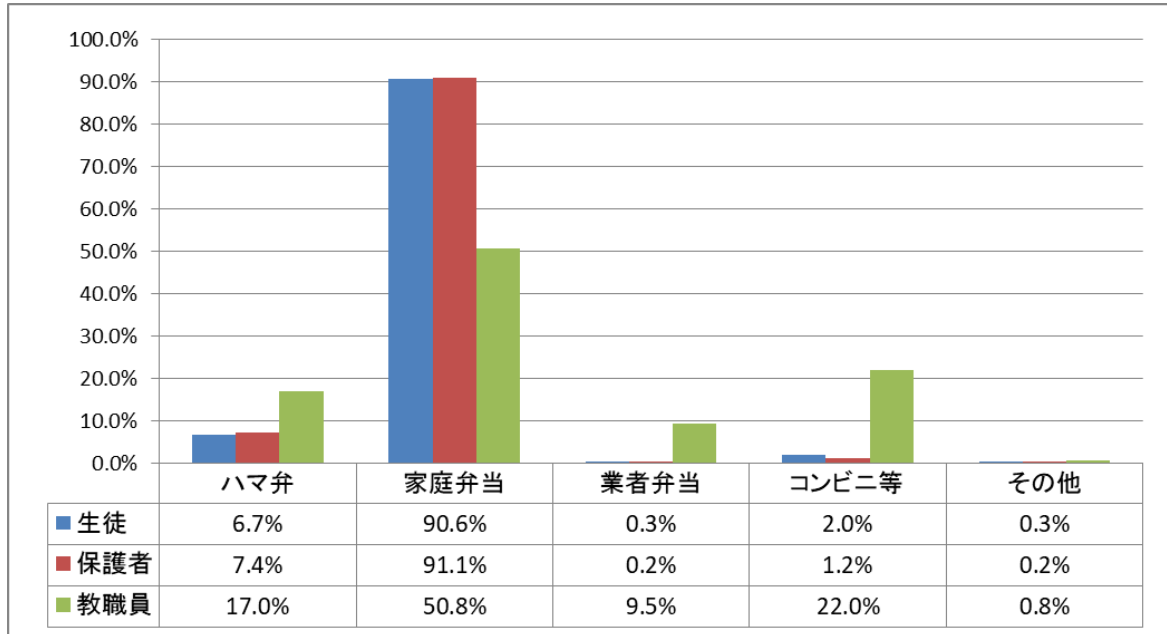
生徒：981/985（99.6%） 保護者：598/599名（99.8%） 教職員：264/265名（99.6%）

2 利用実態

(1) 昼食の利用状況（図表 1）

生徒、保護者、教職員ともに家庭弁当の割合が高い。特に、**生徒、保護者の約9割が家庭弁当**を利用している。

（図表 1）昼食の利用状況（SA）



生徒 N=981 保護者 N=598 教職員 N=264

(2) 昼食の選択理由（図表 2）

ハマ弁、業者弁当、コンビニは「便利」との回答割合が最も多い。また、ハマ弁は「栄養バランスが良い」との回答割合が、業者弁当は「便利」の回答割合が他の昼食と比べて突出している。

家庭弁当、その他では「おいしい」、「好き」の回答割合が高い。それぞれの昼食ごとの特徴をあげると次のとおりである。

ア ハマ弁

「栄養バランスが良い」、「便利」、「安い」と回答した割合が高い。特に「**栄養バランスが良い**」という理由は、他の昼食の倍以上回答されている。一方で「おいしい」、「好き」を回答した割合は最も少ない。

イ 家庭弁当

「**おいしい**」、「**好き**」と回答した割合が高い。一方で「便利」と回答した割合は他の昼食と比べ低い。

ウ 業者弁当

「**便利**」と回答した割合が突出している。一方、「栄養バランスが良い」、「好き」と回答した割合は低い。

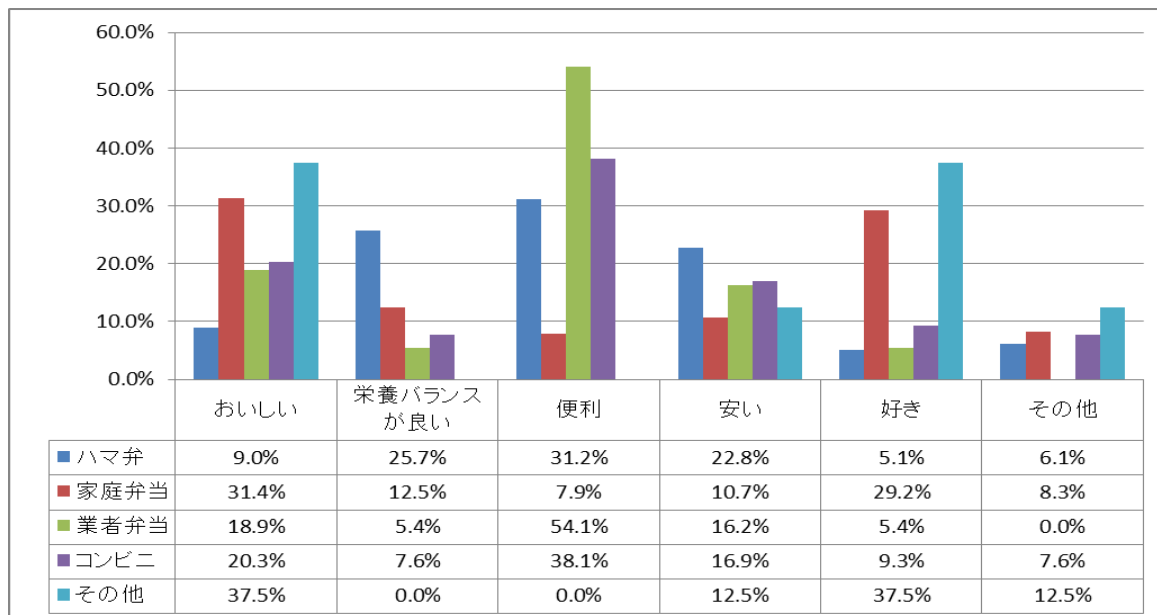
エ コンビニ

「**便利**」と回答した割合が高く、次いで「おいしい」と回答した割合が高い。「栄養バランスが良い」、「好き」の割合は低い。

オ その他

その他の昼食は、家にあるパンを持参していたり、行きつけのパン屋でサンドウィッチの持参等があげられる。その他を選択している理由は、「おいしい」、「好き」と回答した割合が高い。

(図表 2) 昼食の選択理由 (MA)



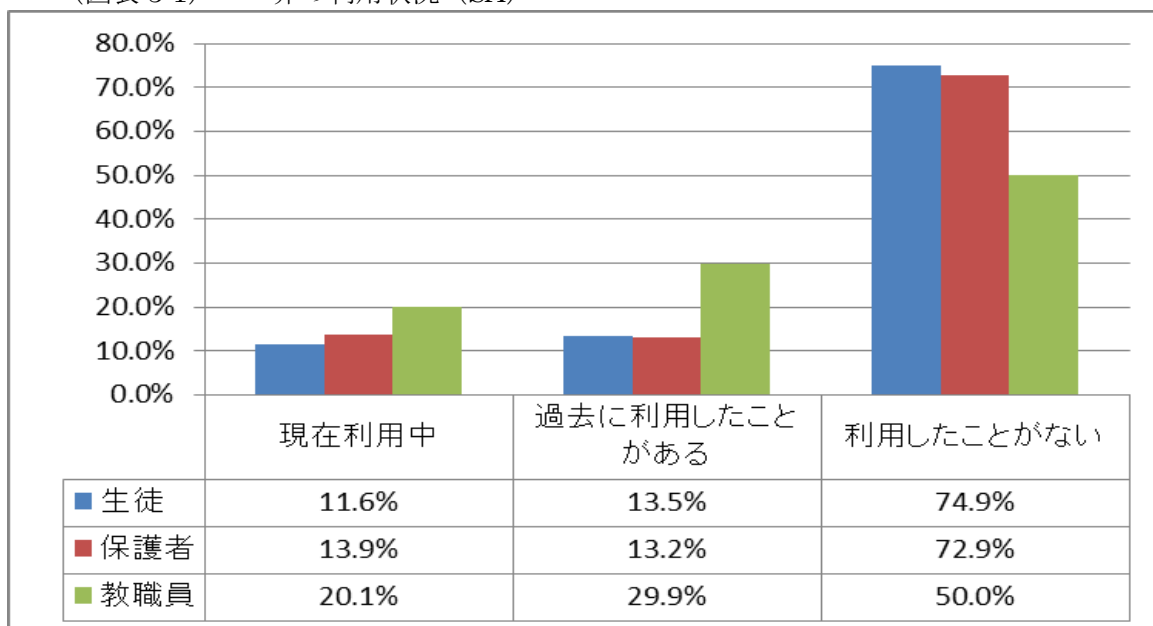
ハマ弁 N=311 家庭弁当 N=2,456 業者弁当 N=37 コンビニ N=118 その他 N= 8

(3) ハマ弁の利用状況 (図表 3-1)

生徒、保護者、教職員ともに「利用したことがない」と回答した割合が最も高い。

また、生徒、保護者はハマ弁を利用した後に継続して利用している割合と、やめてしまう割合が同じ程度であるが、教職員についてはハマ弁を利用した後、やめてしまう割合の方が 10 ポイント高い。

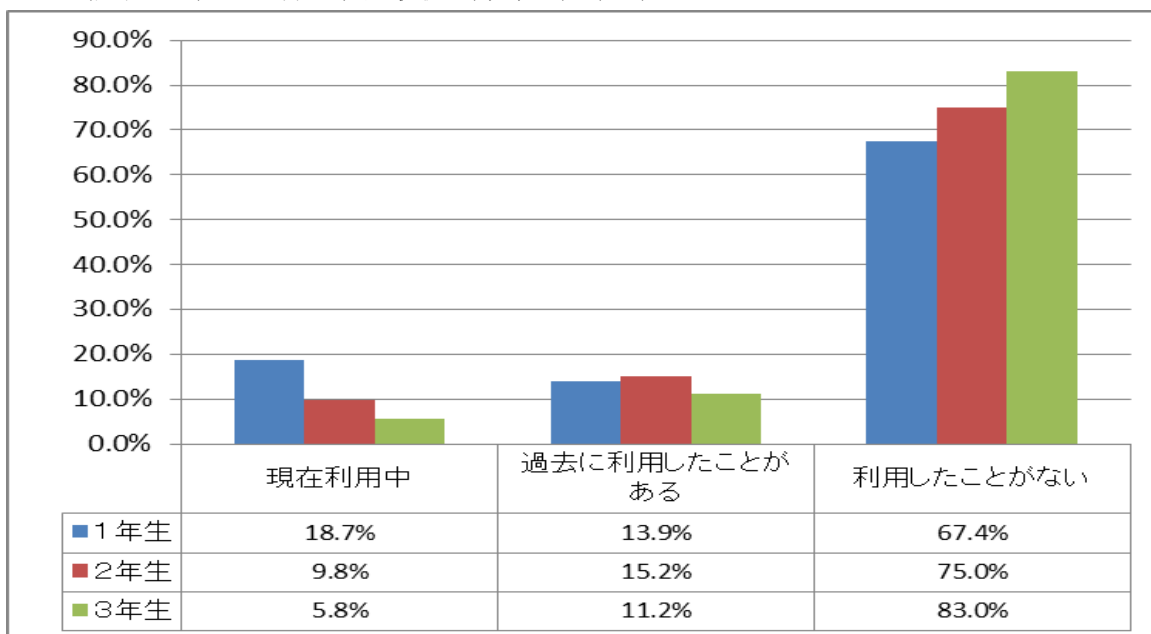
(図表 3-1) ハマ弁の利用状況 (SA)



生徒 N=964 保護者 N=591 教職員 N=264

なお、生徒の利用状況について学年別（図表 3-2）にみると、1年生から3年生まで学年が上がるにつれて利用中の割合が低下していることが分かる。逆に利用したことがないと答える割合は学年が上がるにつれて増加している。

（図表 3-2）ハマ弁の利用状況（学年別）（SA）



1年生 N=331 2年生 N=348 3年生 N=277

ア ハマ弁を現在利用している方の実態

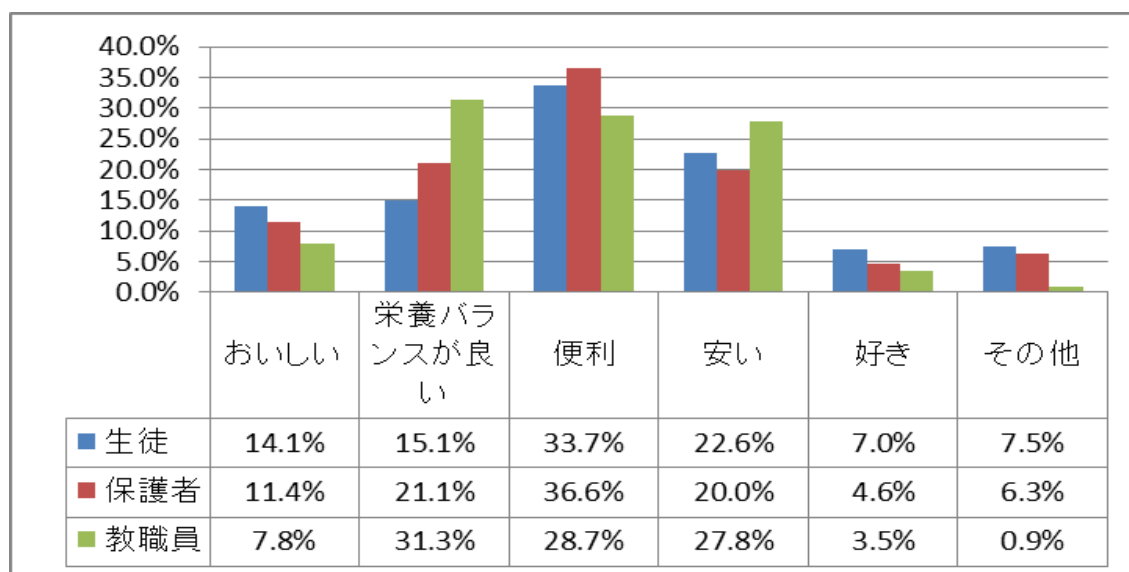
（ア）利用している理由（図表 4）

「栄養バランスが良い」、「便利」、「安い」と回答している割合が高い。

その中でも、生徒と保護者は「便利」と回答している割合が最も高く、教職員は「栄養バランスが良い」と回答している割合が最も高い。

また、生徒は、「おいしい」「栄養バランスが良い」と回答している割合が同程度であるが、保護者、教職員は「おいしい」よりも「栄養バランスが良い」と回答している割合が高い。

（図表 4）ハマ弁を利用している理由（MA）



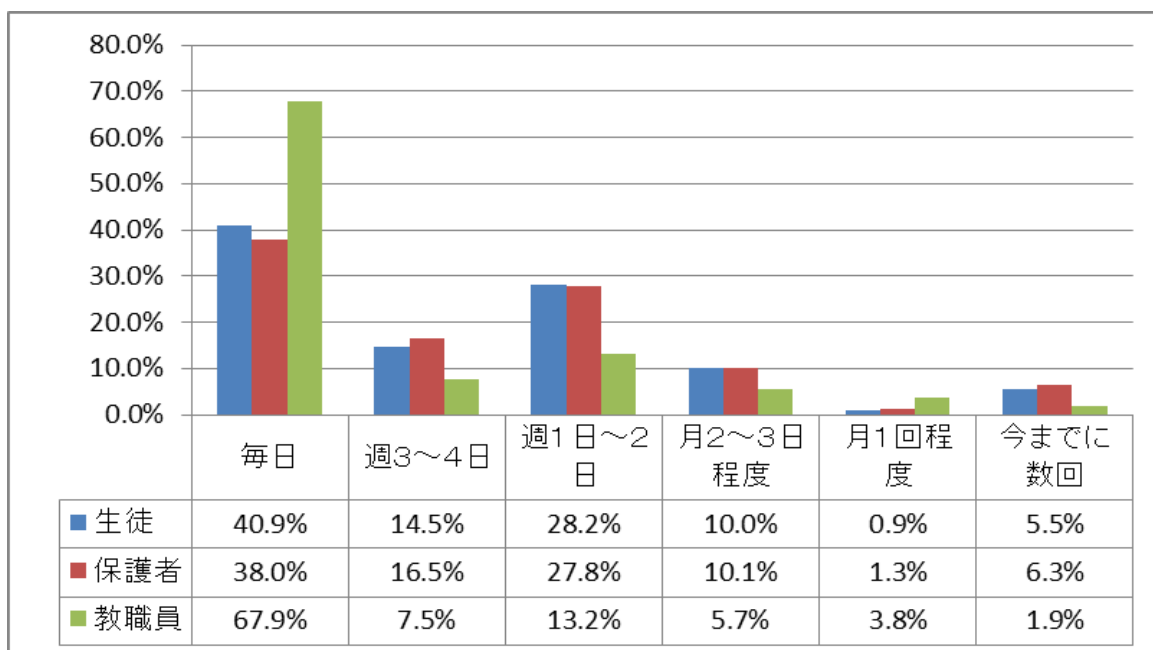
生徒 n = 199 (N=964) 保護者 n = 175 (N=591) 教職員 n = 115 (N=264)

(イ) 利用頻度 (図表 5)

生徒、保護者、教職員ともに「**毎日**」と回答した割合が最も高い。特に教職員については、約7割が「毎日」と回答している。

また、生徒、保護者、教職員ともに**週1回以上ハマ弁を利用している**と回答している割合が、合計すると**8割**を超えている。

(図表 5) 利用頻度 (利用中) (SA)



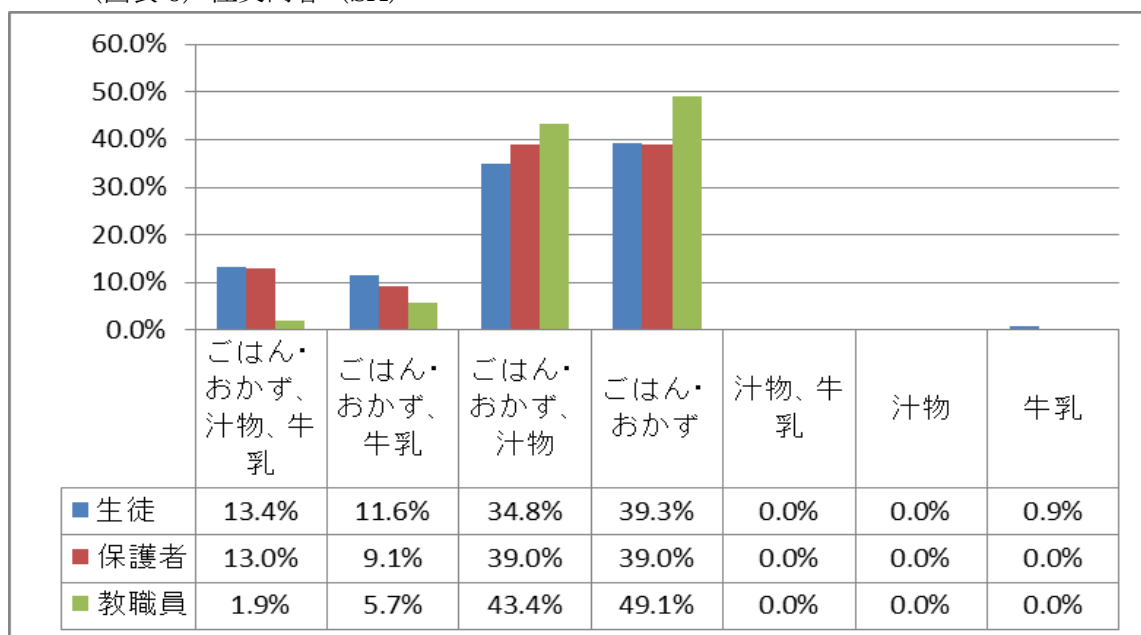
生徒 n = 110 (N = 964) 保護者 n = 79 (N = 591) 教職員 n = 53 (N = 264)

(ウ) 注文内容 (図表 6)

生徒、保護者、教職員ともに「ごはん・おかず、汁物」「ごはん・おかず」を注文しているとの回答している割合が高い。**牛乳付の注文は2割程度**に留まっている。

一方で、「汁物、牛乳」「汁物」を注文している回答はゼロであり、「牛乳」のみの利用も**0.9%**とゼロに近い割合である。

(図表 6) 注文内容 (SA)



生徒 n = 112 (N=964) 保護者 n = 77 (N=591) 教職員 n = 53 (N=264)

イ 過去に使ったことがある方の実態

(ア) 利用した理由 (図表 7)

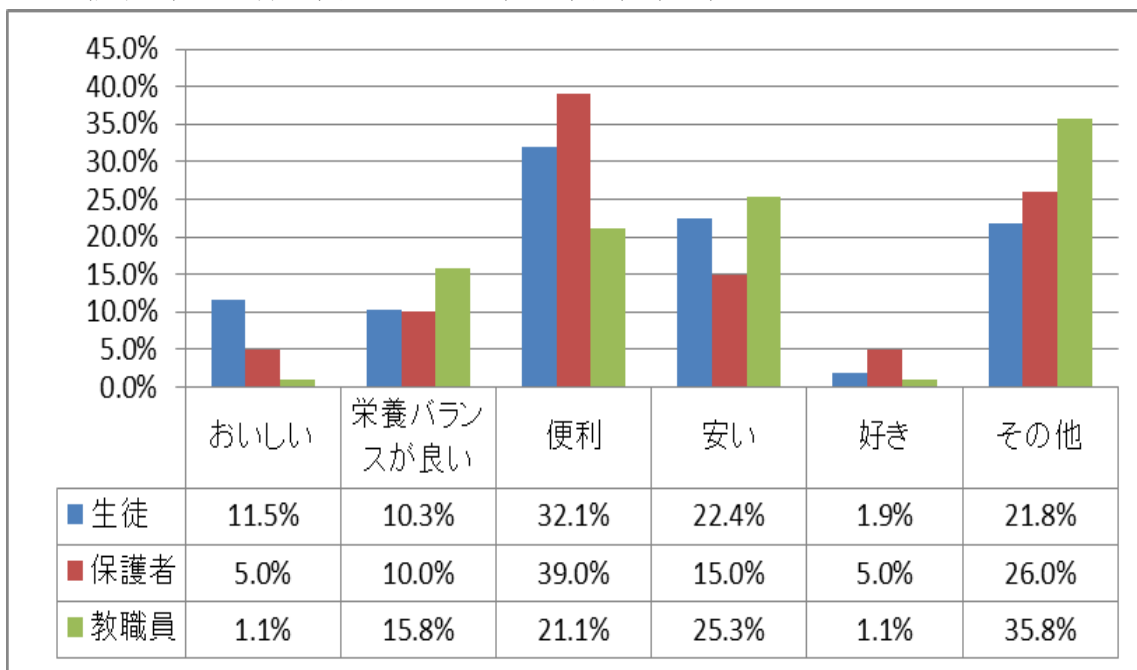
便利、安い、その他を回答した割合が高い。

生徒、保護者は**便利**だからと回答した理由が最も高いが、教職員はその他を回答した割合が高い。

その他であるが、生徒の主な内容は「保護者の都合」「無料だったから」「興味があったから」。保護者の主な内容は、「弁当が作れなかったとき」「無料だったから」「試しに」。教職員の主な内容は、「当日注文ができるようになったから」「お試し」「好きなメニューがあったから」である。

また、生徒は、「おいしい」と「栄養バランスが良い」の割合が同程度であるが、保護者、教職員は「おいしい」よりも「栄養バランスが良」の割合が高い。

(図表 7) ハマ弁を利用した理由 (過去利用) (MA)



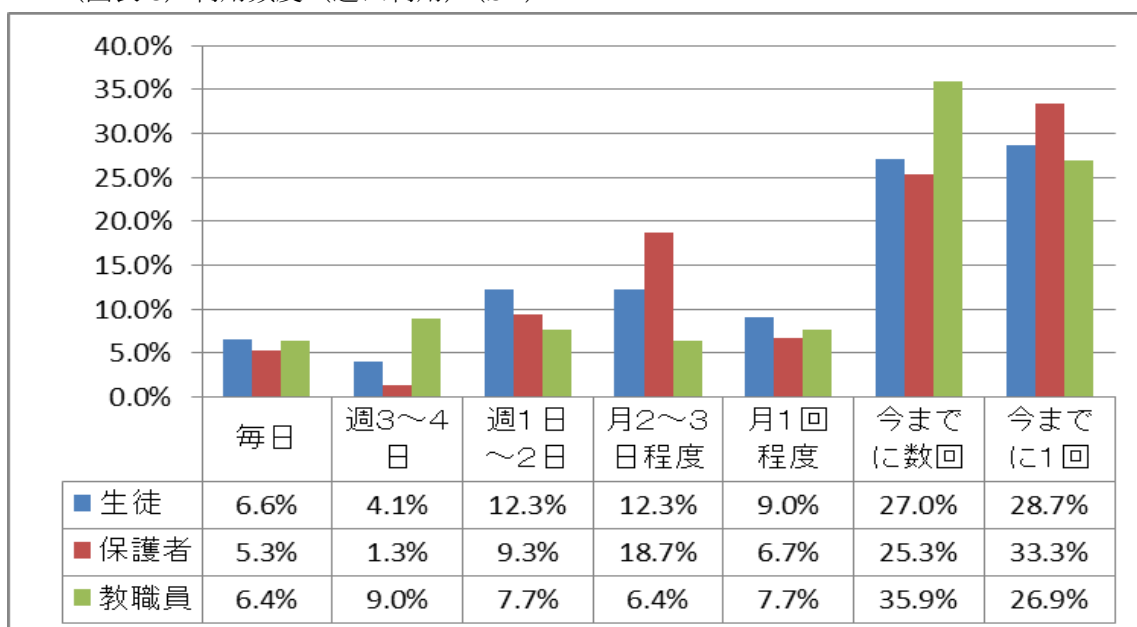
生徒 n = 156 (N=964) 保護者 n = 100 (N=591) 教職員 n = 95 (N=264)

(イ) 利用していた時の頻度 (図表 8)

生徒、保護者、教職員ともに「今までに数回」「今までに1回」と回答している割合が高く、合わせると5割を超えている。

一方で 週1日以上ハマ弁を食べていたと回答している割合も約2割あり、定期的に頼んでいたがやめてしまった方がいることも事実である。

(図表 8) 利用頻度 (過去利用) (SA)



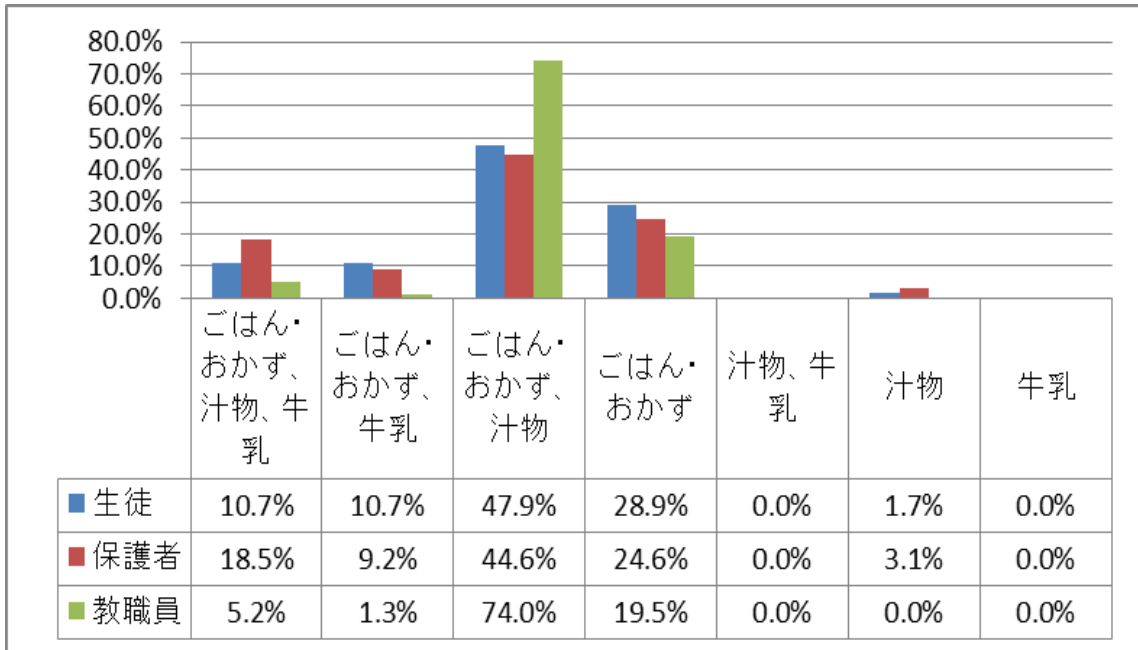
生徒 n = 122 (N=964) 保護者 n = 75 (N=591) 教職員 n = 78 (N=264)

(ウ) 注文内容 (図表 9)

生徒、保護者、教職員ともに「ごはん・おかず、汁物」と回答している割合が最も高い。

一方で、「汁物、牛乳」「牛乳」を注文している回答はゼロであり、「汁物」を利用したとの回答もゼロに近い割合である。

(図表 9) 注文内容 (過去利用) (SA)



生徒 n = 121 (N=964) 保護者 n = 65 (N=591) 教職員 n = 77 (N=264)

(エ) ハマ弁の利用をやめた理由 (図表 10-1)

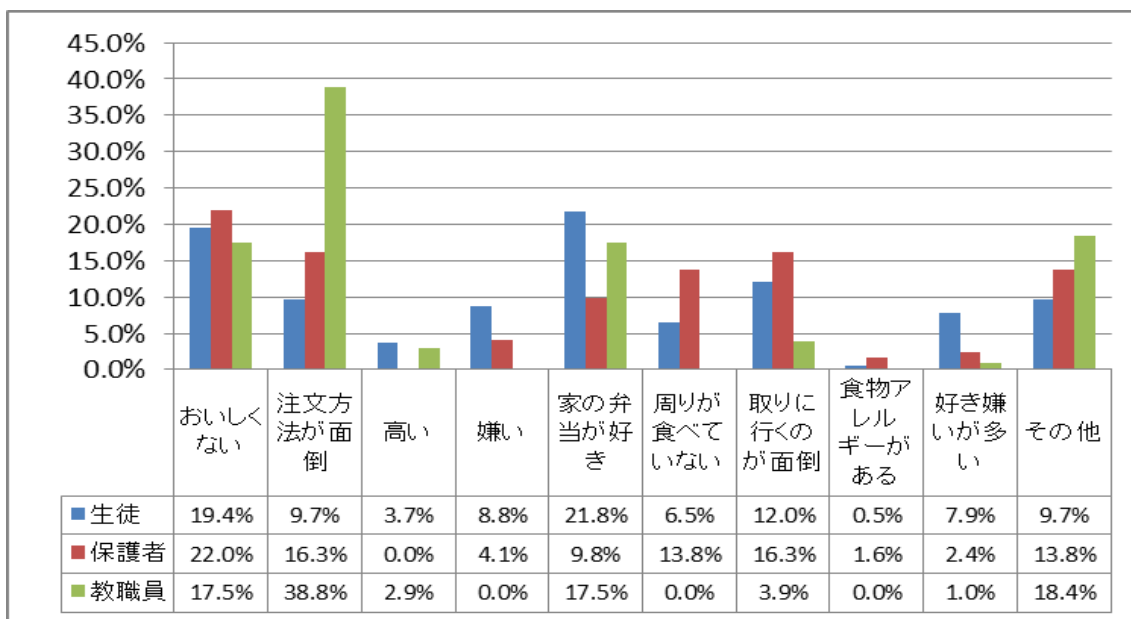
生徒は、「家の弁当が好き」「おいしくない」「取りに行くのが面倒」と回答している割合が上位3位である。

保護者は、「おいしくない」「注文方法が面倒」「取りに行くのが面倒」と回答した割合が上位3位である。

教職員は「注文方法が面倒」「その他」「おいしくない」「家の弁当が好き」との回答が上位3位である。

全体的に、「注文方法が面倒」「おいしくない」「家の弁当が好き」「取りに行くのが面倒」といった理由からハマ弁の利用をやめたことが分かる。

(図表 10-1) 利用をやめた理由 (MA)



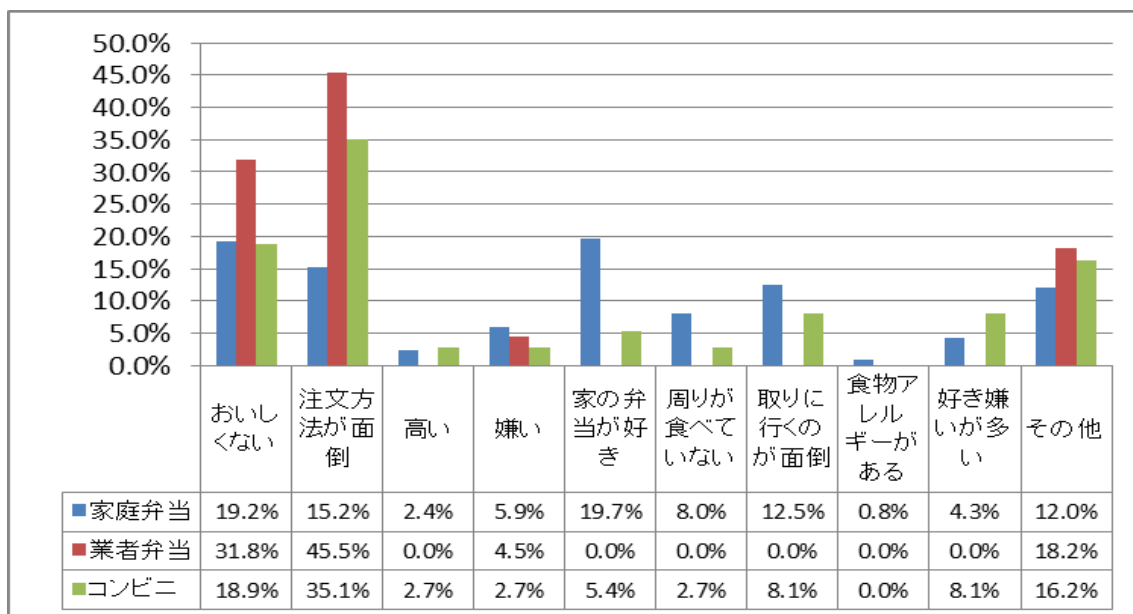
生徒 n = 216 (N=964) 保護者 n = 123 (N=591) 教職員 n = 103 (N=264)

また、昼食パターン別にハマ弁を選択しない理由(図表 10-2) を見てみる(ハマ弁を利用している方、その他は回答数が少ないことから除外) と、主な利用が家庭弁当の方は、「家の弁当が好き」「おいしくない」「注文方法が面倒」の回答割合が上位3位である。

主な利用が業者弁当、コンビニの方は「注文方法が面倒」「おいしくない」「その他」の回答割合が上位3位であるが、特に教職員は、「注文方法が面倒」の割合が突出している。

「注文方法が面倒」「おいしくない」という意見がどの昼食パターンでも高いが、家庭弁当持参者は「取りに行くのが面倒」「周りが食べていない」と回答している割合が他のパターンと比較して高いことも分かる。

(図表 10-2) 利用をやめた理由 (MA) (昼食パターン別)



家庭弁当 N=375 業者弁当 N=22 コンビニ N=37

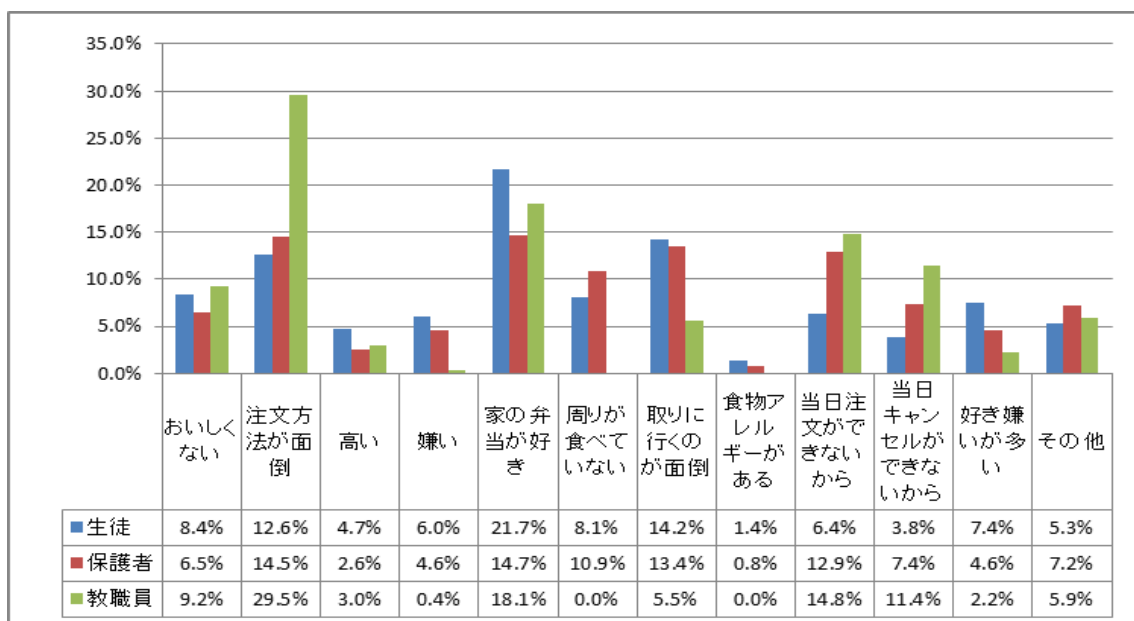
ウ ハマ弁を利用しない方の実態

(ア) ハマ弁を利用しない理由 (図表 11-1)

生徒、保護者については、「家の弁当が好き」「注文方法が面倒」「取りに行くのが面倒」と回答している割合が上位3位である。教職員については、「注文方法が面倒」「家の弁当が好き」「当日注文ができないから」と回答している割合が上位3位である。また、生徒、保護者については、「周りが食べていない」と回答している割合も高い。

一方、食べていないにも関わらず「おいしくない」と回答している実態や、モニター校で当日注文を実施しているにも関わらず、「当日注文ができないから」と回答している割合も比較高いことが分かる。

(図表 11-1) ハマ弁を利用しない理由 (MA)



生徒 N=964 保護者 N=591 教職員 N=264

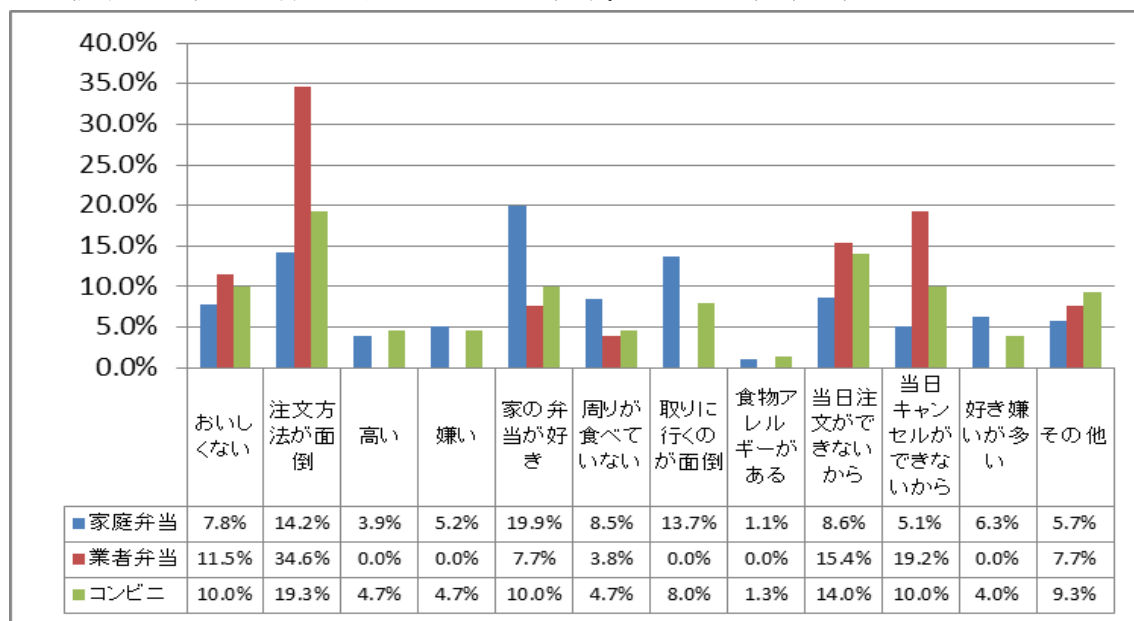
また、昼食パターン別にハマ弁を選択しない理由（図表 11-2）をしてみる（ハマ弁を利用している方、その他は回答数が少ないことから除外）と、主に家庭弁当を利用している場合、「家の弁当が好き」「注文方法が面倒」「取りに行くのが面倒」を回答している割合が上位3位である。

主に業者弁当を利用している場合、「注文方法が面倒」「当日キャンセルができないから」「当日注文ができないから」を回答している割合が上位3位である。

主にコンビニを利用している場合、「注文方法が面倒」、「当日注文ができないから」を回答している割合が上位1、2位であり、3位に「おいしくない」「家の弁当が好き」「当日キャンセルができないから」が同率で並んでいる。

注文方法が面倒だという意見がどの昼食パターンでも利用しない理由の1位である。また主に業者弁当、コンビニを選択しているパターンでは、当日注文、キャンセルができないことを理由に回答している割合が高いが、家庭弁当持参者では「取りに行くのが面倒」「周りが食べていない」と回答している割合が他のパターンと比較して高いことも分かる。

（図表 11-2）ハマ弁を選択しない理由（昼食パターン別）（MA）



家庭弁当 N=3,171 業者弁当 N=26 コンビニ N=150

(4) ハマ弁の味、量に関する実態（図表 12-1）

味の満足度、おかずの味つけ、おかずの量について、ハマ弁を食べている生徒、教職員から5段階評価で回答してもらい、平均値をとった（評価：低1→高5 平均的な評価=3.0）。

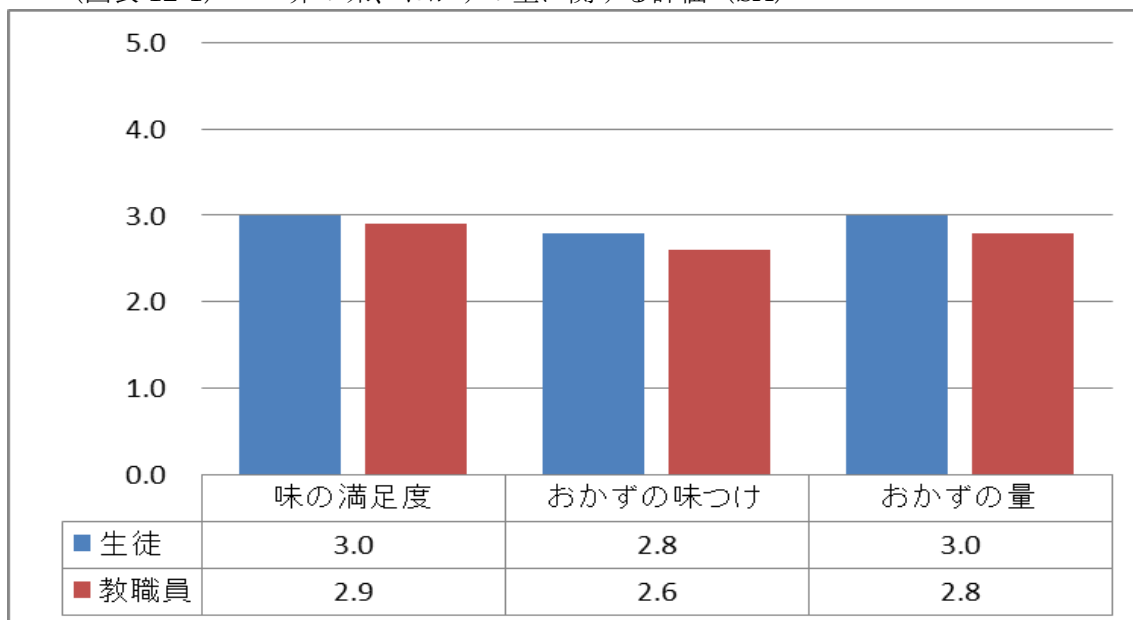
生徒の味の満足度、おかずの量については3.0となっており平均的な評価であった。
おかずの味付けについては、平均的な評価より0.2ポイント低い値となっている。

教職員については、味の満足度は生徒全体の平均値より0.1ポイント、おかずの味付け、おかずの量については0.2ポイント低い評価となっている。なお、おかずの味付けについては、平均な評価より0.4ポイント低い評価となっている。

全体的に生徒の方がハマ弁の味、おかずの量に関する評価は高いが、教職員はハマ弁の価格が生徒より高い※点を考慮する必要がある。

※「ごはん・おかず、汁物、牛乳」+130円、「ごはん・おかず、牛乳」+120円
「ごはん・おかず、汁物」+90円、「ごはん・おかず」+80円 等

(図表 12-1) ハマ弁の味、おかずの量に関する評価 (SA)



生徒：味の満足度 N=229 おかずの味付け N=227 おかずの量 N=226
教職員：味の満足度 N=127 おかずの味付け=N128 おかずの量 N=128

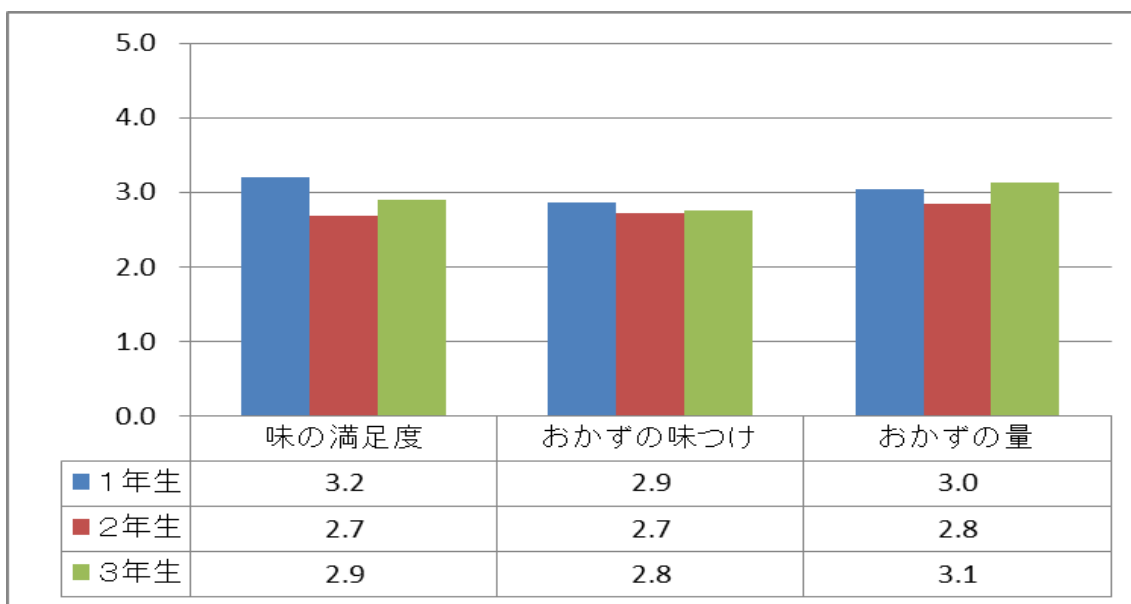
次に、生徒の学年別（図表 12-2）でみると、味の満足度については、1年生は平均的な評価である 3.0 より 0.2 ポイント高い値になっているが、2年生は 0.3 ポイント、3年生は 0.1 ポイント平均値より低い値となっている。

おかずの味つけについては、すべての学年で平均的な評価である 3.0 より低い値となっている。

おかずの量については、1年生は平均な評価である 3.0 であった。3年生はそれより 0.1 ポイント高い値となっているが、2年生は 0.2 ポイント低い値となっている。

また、全体的にみると 1年生の値が他の学年より高い傾向にあり、2年生はすべての項目で低い値となっている。

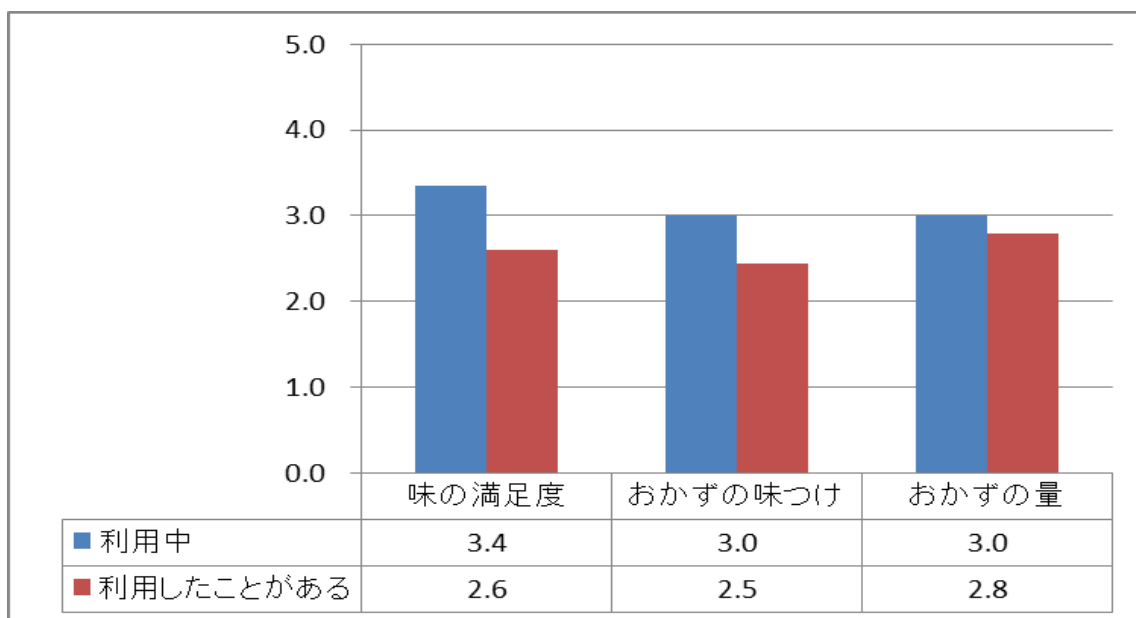
(図表 12-2) ハマ弁の味、おかずの量に関する評価 (学年別) (SA)



1年生：味の満足度 N=101 おかずの味付け N=101 おかずの量 N=101
 2年生：味の満足度 N=86 おかずの味付け N=84 おかずの量 N=84
 3年生：味の満足度 N=41 おかずの味付け N=41 おかずの量 N=41

また、ハマ弁の利用状況別 (図表 12-3) にみても、ハマ弁を利用中の方は味の満足度、おかずの味つけ、おかずの量について平均的な評価以上の数字となっている。一方、過去ハマ弁を利用していたが、現在利用をやめた方は、味の満足度、おかずの味つけ、おかずの量のいずれも平均的な評価を下回っている。

(図表 12-3) ハマ弁の味、おかずの量に関する評価 (利用状況別) (SA)



利用中：味の満足度 N=106 おかずの味付け N=105 おかずの量 N=105
 利用したことがある：味の満足度 N=119 おかずの味付け N=118 おかずの量 N=118

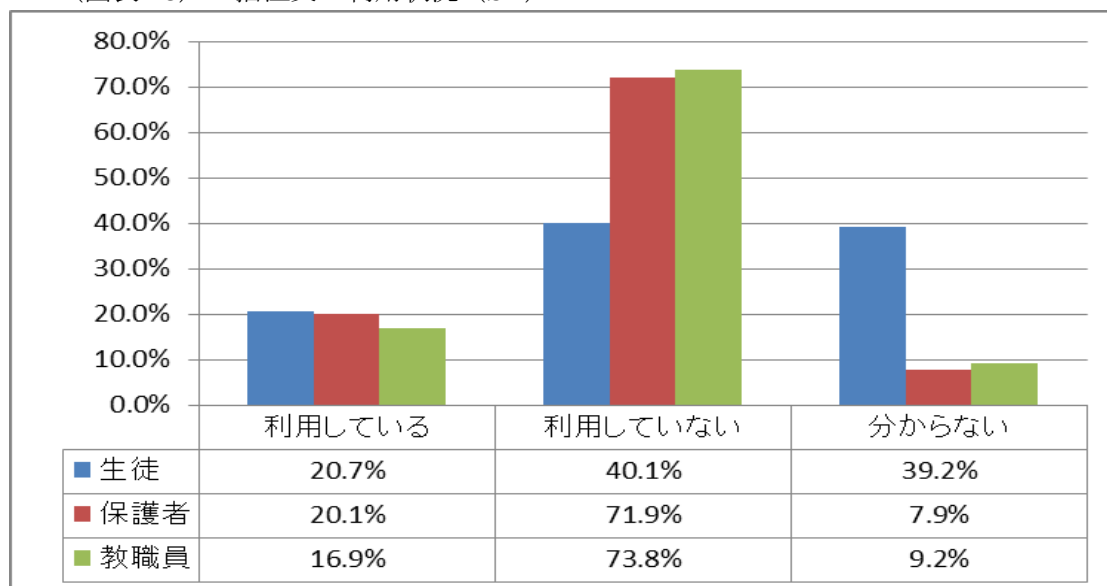
(5) 一括注文の利用状況（図表 13）

生徒、保護者、教職員ともに「利用していない」と回答している割合が高い。

また、一括注文の制度について「分からない」と回答している割合は生徒が高いが親が注文していることも考えられる。

なお、保護者、教職員の中での一括注文のことを分からないと回答している方が一定数いることが分かる。

（図表 13）一括注文の利用状況（SA）



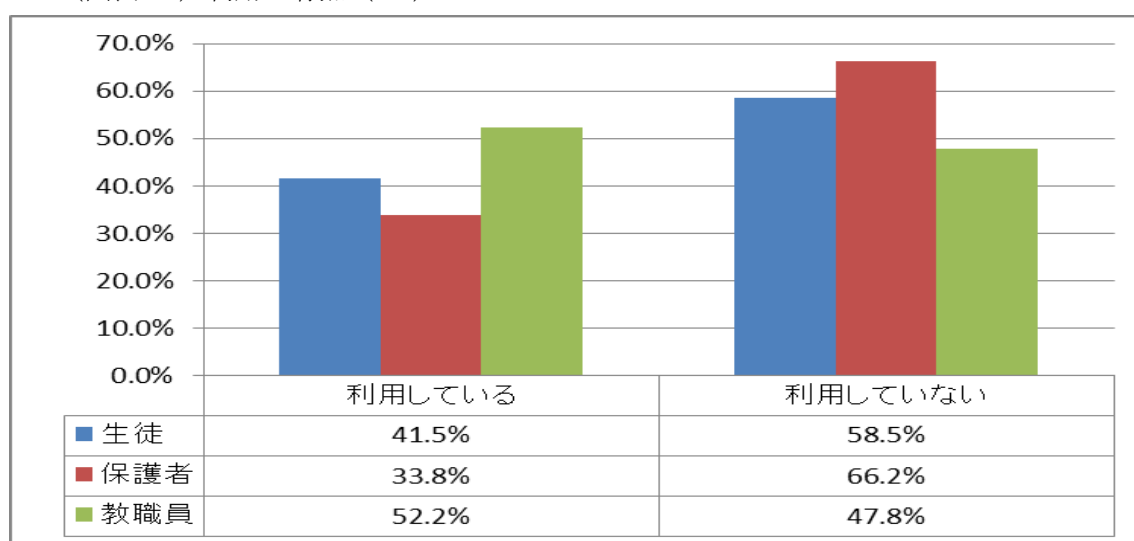
生徒 N=227 保護者 N=139 教職員 N=130

(6) 当日注文の利用状況

ア 利用の有無（図表 14）

生徒、保護者については利用していないと回答した割合が高いが 生徒の約4割が利用していると回答しており、一定のニーズがあると言える。教職員については、利用している割合が5割を超えていることからニーズの有無は言うまでもない。

（図表 14）利用の有無（SA）



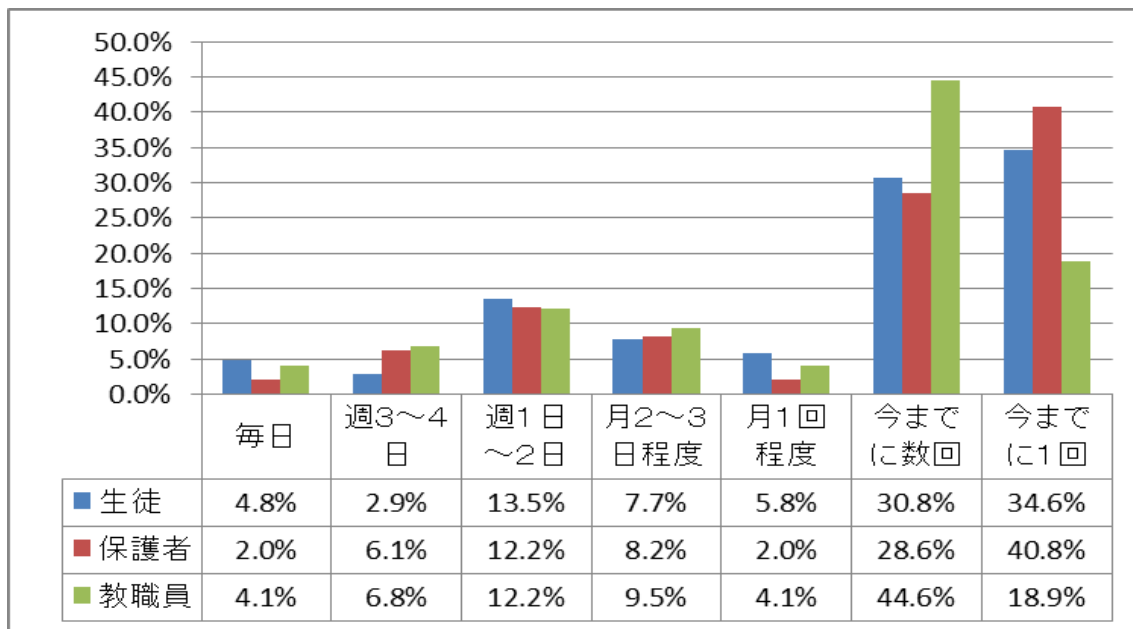
生徒 N=236 保護者 N=142 教職員 N=136

イ 利用頻度 (図表 15)

生徒、保護者、教職員ともに「今までに数回」、「今までに1回」と回答している割合が高く、臨時的に利用している傾向がある。

一方、毎日、週1～2日使用している生徒、教職員も約2割いることが分かる。

(図表 15) 当日注文の利用頻度 (SA)



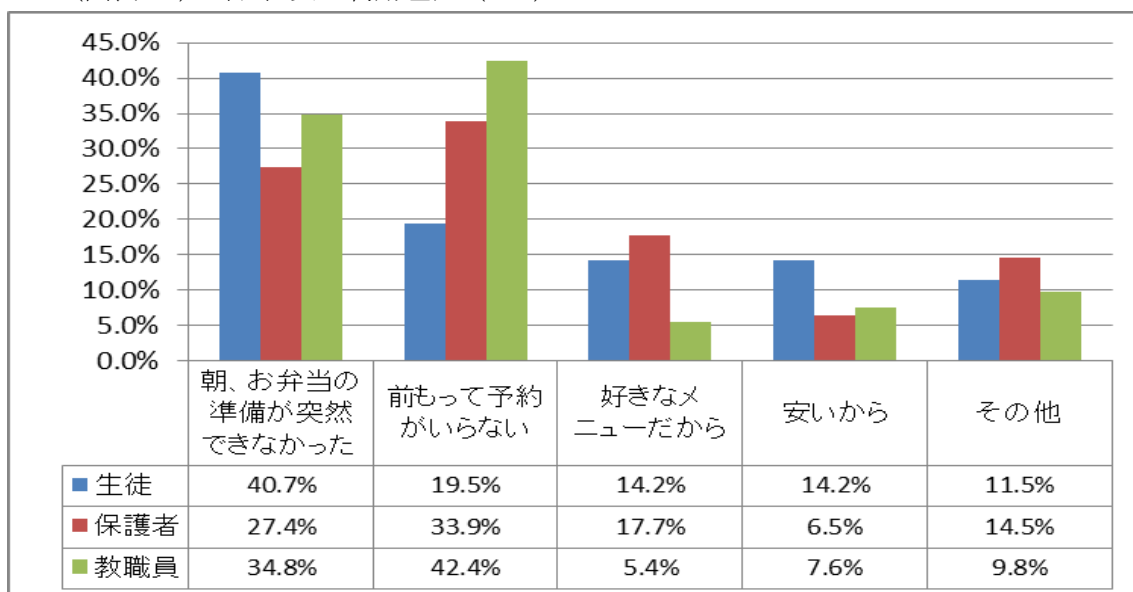
生徒 N=236 保護者 N=142 教職員 N=136

ウ 利用理由 (図表 16)

生徒、保護者、教職員ともに「朝、お弁当の準備が突然できなかった」「前もって予約がいない」と回答した割合が高く、臨時的な手段として活用している割合が高いことが分かる。

一方、生徒、保護者においては「好きなメニューだから」と回答している割合も一定数あり、メニューによってハマ弁を選択している実態があることが分かる。

(図表 16) 当日注文の利用理由 (MA)



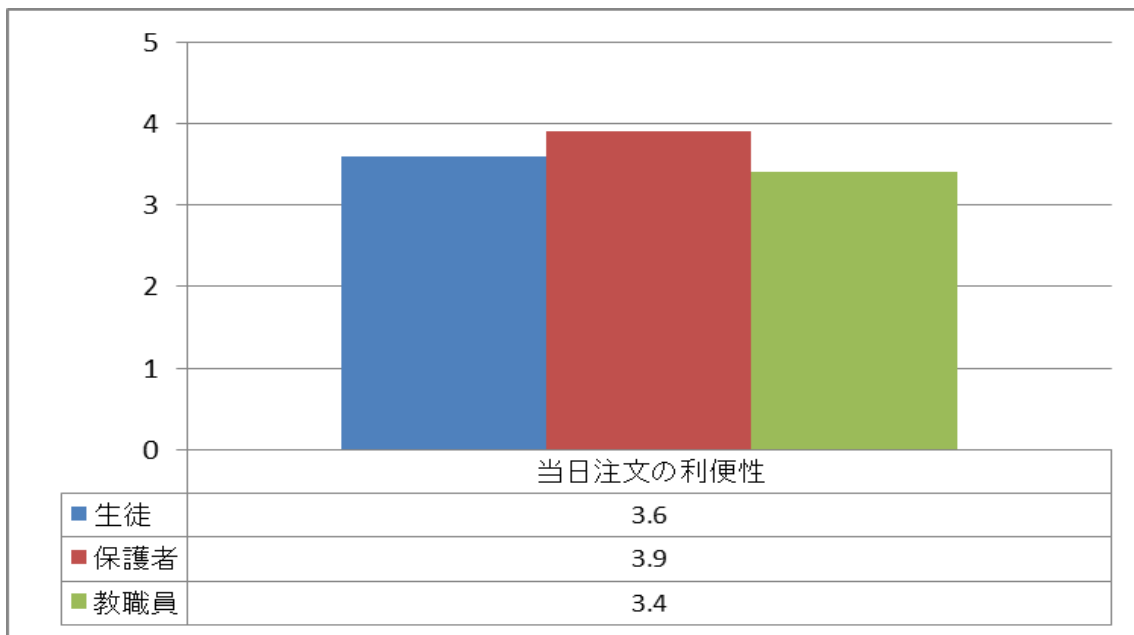
生徒 N=236 保護者 N=142 教職員 N=136

エ 当日注文の利便性（図表 17）

当日注文の利便性について、当日注文を利用したことがある生徒、保護者、教職員から5段階評価で回答してもらい、平均値をとった（評価：低1→高5）。

生徒、保護者、教職員ともに平均値である 3.0 ポイントを大きく上回っており、当日注文の利便性を評価していることが分かる。特に 保護者については、4.0 ポイント近くの高評価であることが分かる。

（図表 17） 当日注文の利便性（SA）



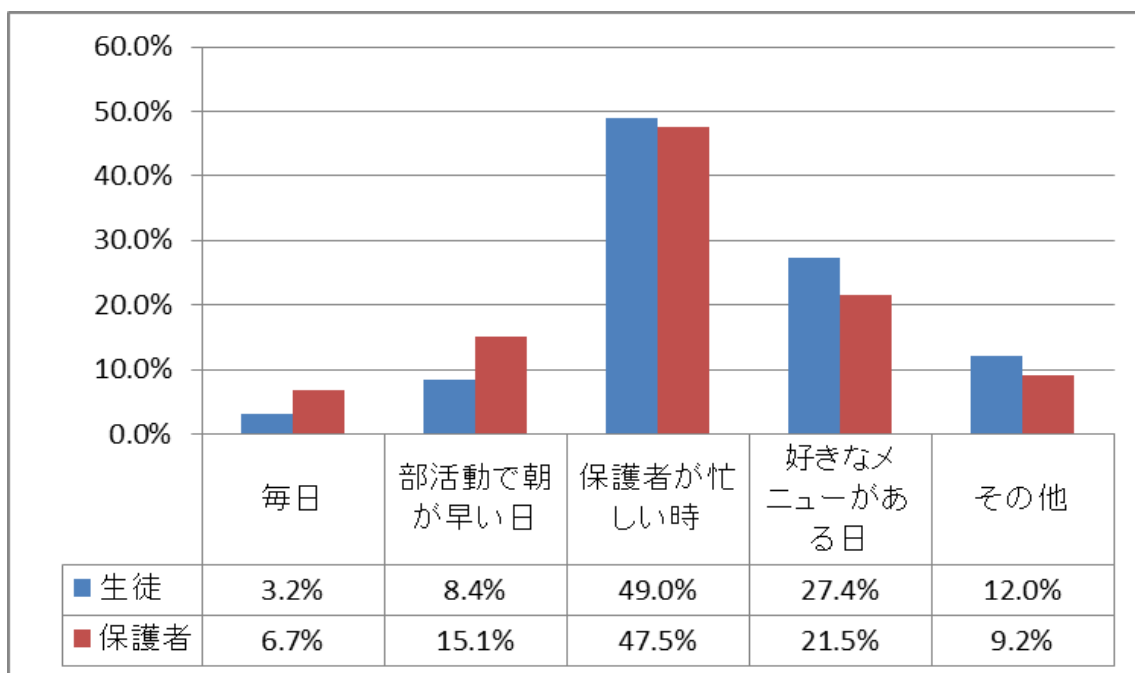
生徒 N=100 保護者 N=49 教職員 N=73

オ ハマ弁をどんな時に利用したいと考えるか（図表 18）

生徒、保護者ともに「保護者が忙しい時」に利用したい回答している割合が最も高い。また、「好きなメニューがある日」と回答している割合が次に高く、メニューにも着目していることが分かる。

一方、「毎日」「部活動で朝が早い日」を見ると、生徒の回答よりも保護者の回答の方が約2倍回答している割合が高いことが分かる。

(図表 18) ハマ弁をどのような時に利用したいか (MA)



生徒 N=981 保護者 N=598

3 自由意見欄について

(1) 回答件数

生徒：368 件 保護者：209 件 教職員：108 件

(2) 記入内容

ア 生徒 (図表 19-1)

ハマ弁の改善を求める内容が一番多く、中でも「味の改善」を求める意見が多く見られ、その後「メニューの充実」「温かさ」と続いている (図表 19-2)。

ハマ弁に肯定的な内容としては、今後利用したい、おいしい (おいしそう)、便利といった意見が見られた。

その他の主な内容は、「分からない」、「利用しない」、「頑張って」との内容であった。

(図表 19-1) 自由意見欄 (生徒)

項目	件数
ハマ弁の改善を求める内容	204
ハマ弁に肯定的な内容	98
ハマ弁に悪いイメージがある	19
給食実施	8
その他	39
合計	368

(図表 19-2) ハマ弁の改善を求める内容の内訳 (生徒)

項目	件数
味の改善	67
メニューの充実	39
温かさ	31
注文方法の改善	26
量の改善	24
配膳・下膳の改善	14
環境(時間、周囲が食べていない)	3
合計	204

イ 保護者 (図表 20-1)

生徒と同様、ハマ弁の改善を求める内容が多くみられた、中でも多くみられたのは、「注文方法の改善」を求める意見 (図表 21-2) であり、その後、「メニューの充実」と続くが、「環境(時間、周囲が食べていない)」の意見が生徒、教職員と比較して多くあることは保護者の特徴としてあげられる。

保護者の自由記入欄で特徴的な項目は、「全員でハマ弁を食べる日」を求める意見が28件あったことである。そのうち、ハマ弁を給食としてほしいという意見は16件あった。また、給食実施を求める意見も多く見られた。

その他の主な内容は、「保護者向けの試食会の実施してほしい」との意見であった。

(図 20-1) 自由記入欄 (保護者)

項目	件数
ハマ弁の改善を求める内容	99
ハマ弁に肯定的な内容	28
全員でハマ弁を食べる日があると良い	28
給食実施	23
ハマ弁に悪いイメージがある	6
その他	25
合計	209

(図表 20-2) ハマ弁の改善を求める内容の内訳 (保護者)

項目	件数
注文方法の改善	29
メニューの充実	18
環境(時間、周囲が食べていない)	17
味の改善	14
温かさ	10
配膳・下膳の改善	8
量の改善	3
合計	99

ウ 教職員 (図表 21-1)

教職員もハマ弁の改善を求める内容が多く、保護者と同様に「注文方法の改善」を求める意見が多く見られ、その後、「メニューの充実」「温かさ」と続いている。

(図表 21-2)

その他の内容にはバラつきがあり、「容器が良くない」、「廃棄が出ない仕組みづくりをしてほしい」、「弁当文化が根付いている」、「体重が痩せた」などの意見があった。

(図表 21-1) 自由意見欄 (教職員)

項目	件数
ハマ弁の改善を求める内容	75
ハマ弁に肯定的な内容	7
給食実施	7
全員でハマ弁を食べる日があると良い	2
ハマ弁に悪いイメージがある	0
その他	17
合計	108

(図表 21-2) ハマ弁の改善を求める内容の内訳 (教職員)

項目	件数
注文方法の改善	24
メニューの充実	15
温かさ	15
味の改善	10
価格に関する意見(高い)	5
量の改善	4
配膳・下膳の改善	1
環境(時間、周囲が食べていない)	1
合計	75

(3) テキストマイニングによる解析 (図表 22)

自由記入欄の発言について、テキストマイニングによる解析を行い共起ネットワークによる可視化を行った。

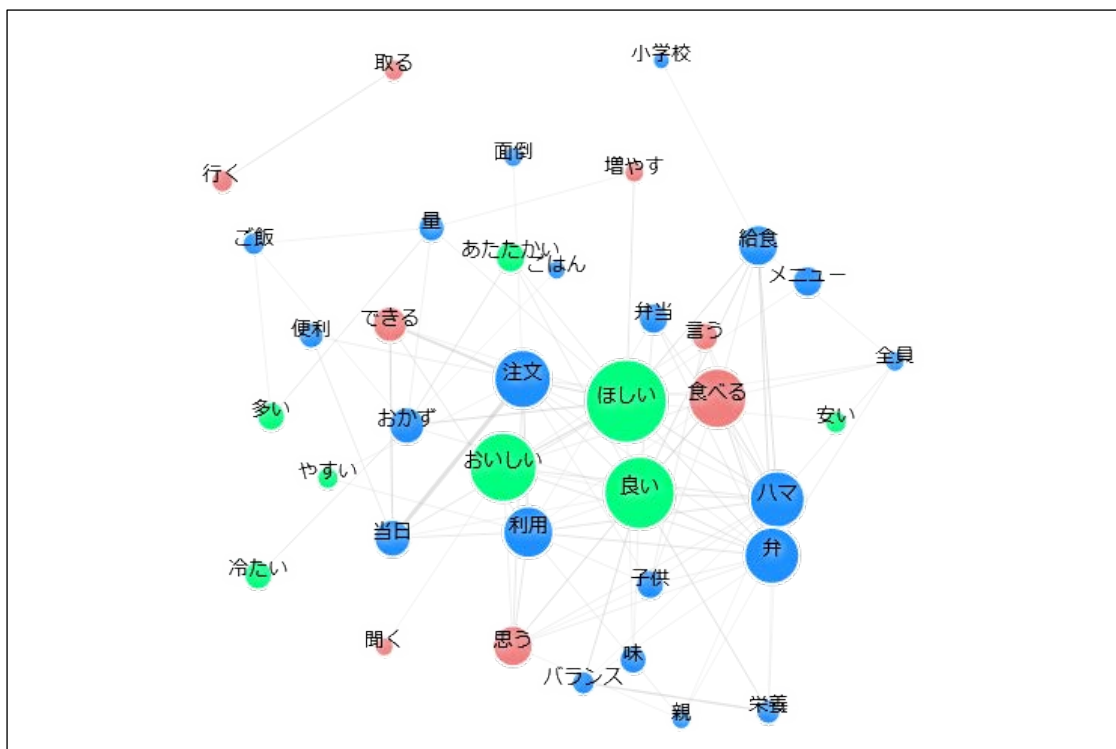
まず、共起回数でみると、「ハマ」「弁」を除き一番共起回数が多かったのは「当日」「注文」であり、これらの単語は、「できる」「便利」「利用」「良い」と結びついていることから、当日注文についてはポジティブな単語との結びつきが多いことが分かった。

次に、単語で見ると一番頻出したのは「ほしい」であり、ハマ弁に対する要望の声が多いことが分かる。結びつきがあるのは「注文」「給食」「あたたかい」「おいしい」「当日」「増やす」「量」である。これらの関係からハマ弁の 改善のポイントとして「あたたかさ」「おいしさ」「量」「当日(注文)」が浮かび上がってくる。

なお、「給食」とのむすびつきがあるのは「ほしい」のほか、「全員」「食べる」「ハマ弁」である。給食にしてほしいという声があることも事実だが、これらの関係から見えてくのは 「全員で食べる」というキーワードではないか

このほか、「親」とは、「ハマ」「弁」「利用」「思う」と結びつきがあることから、ハマ弁を利用したいと思っている親もいることが分かる。また、「子供」とは、「ハマ」「弁」「注文」「利用」「食べる」「思う」「言う」と結びつきがあり、子供が「食べると言う」ことや「食べたいと思う」と利用する、注文するという関係が見えてくる。

(図表 22) 自由意見欄のテキストマイニング (共起ネットワーク)



フリーソフト：UserLocal テキストマイニングツールを活用

4 今後の改善に向けて

上記 2 及び 3 における実態やテキストマイニングによる解析からハマ弁の改善点として次の項目を挙げる。

- (1) 味の満足度、**おかずの味つけ**、おかずの量の平均値の底上げ
- (2) 生徒が好きなメニュー、**魅力あるメニュー**の取り入れ
- (3) 受渡、回収方法の改善
- (4) ハマ弁の情報発信
- (5) その他 (広報強化・利用しやすい環境づくり等)

(1) 味の満足度、おかずの味つけ、おかずの量の平均値の底上げについて

2018 年秋にハマ弁のリニューアルを実施し、メニューを刷新して献立を充実しているが、①ハマ弁の利用をやめた理由 (図表 10-1) で、「**おいしくない**」と回答している割合が上位 に来ていること、②利用状況別にみた味、おかずの量の評価 (図表 12-3) では、利用中の方の評価が平均的な評価以上であったのに対し、利用をやめた方の評価が平均的な評価以下 であったこと、③自由意見欄でも「味の改善」を求める意見 (図表 19-2) が多かった ことから、これらの数値を平均的な評価以上に底上げすることができるよう改善を図る必要がある。

なお、利用をやめた方はリニューアル前のハマ弁を食べていた可能性も考慮する必要がある。

(2) 生徒が好きなメニュー、魅力あるメニューの取り入れ

当日注文の利用理由(図表 16)やハマ弁をどのようなときに利用したいか(図表 18)によると、①「好きなメニューがある時」との回答も一定数あること、②自由意見欄でも「メニューの充実」を求める声が多かったこと(図表 19-2、20-2、21-2)から、更なるメニューの工夫が必要である。

ベ이스ターズ青星寮カレーなど生徒の興味を引くような、**企業等とのコラボによる特色あるメニュー**を定期的(毎月)に提供するほか、年明けから「ハマ弁食育ウィーク」として、生徒に人気のメニューや小学校給食で好評だったメニューを集中して提供し、注文数は着実に増えていることから、今後もさらに充実する必要がある。

(3) 受渡、回収方法の改善

特に生徒から、ハマ弁を利用しなくなった、利用しない理由として「取りに行くのが面倒だから」との回答が多くみられた。ハマ弁を取りに行く場所が教室から遠い学校もあることから、各フロアでの受渡・回収、教室での配膳などモニター校等の協力を得ながら、効率的な受渡・回収方法をシミュレーションするとともに、喫食率の状況や昼食時間延長の検討状況等を踏まえながら、受渡・回収方法の改善を図る必要がある。

(4) ハマ弁の情報発信

ア 取組の周知

一括注文の制度自体を、分からないと回答していたり、当日注文の試行実施校にも関わらず、ハマ弁を利用しない理由に当日注文がないことを挙げている生徒、保護者、教職員がいることからハマ弁への理解が進むよう、情報発信を工夫する必要がある。

また、「好きなメニュー」を取り入れることへのニーズがあることから、年明けから実施している生徒に人気のメニューを集めた「ハマ弁食育ウィーク」の取組等も一層周知していく必要がある。

イ 注文方法の案内

当日注文を週1回以上頼んでいる生徒が約2割いることから、今後の全校展開を見据え、売り切れる心配のない事前注文への切り替えをご案内「当日注文から事前注文へ」する必要がある。

また、「注文方法が面倒」だから使わないという意見もあることから、日々の注文は面倒だから毎日使う方は一括注文が便利、毎週〇曜日はハマ弁にしようなど、用途によってある程度パターンを決めておけば、日々の注文を気にする心配はないというようなご案内をすることも必要だと考える。

(5) その他(広報強化、利用しやすい環境づくり等)

中学校1年生のハマ弁に対する評価の方が、2年生、3年生よりも高いことから、**小学校6年生に対するハマ弁の周知**をより効果的に行う必要がある。本年1月から3月にかけて35校の小学校で実施した6年生を対象としたハマ弁デーでは、ハマ弁を試食した6割の児童がおいしいと答え、約15%は中学校へ進学したら利用したいと回答していることから、来年度は全小学校で6年生を対象としたハマ弁デーを実施することが考えられる。

また、本年8月末から、就学援助等対象者へハマ弁の支援を拡充する予定であるが、中学校においても、「ハマ弁を利用しやすい取組」として、「ハマ弁デー」や「ハマ弁ウィーク」、「毎月19日（食育の日）はハマ弁の日」、さらには「毎週金曜日はハマ弁の日」など、各学校でハマ弁を全校生徒、全学年、クラス全員で食べる機会を設けることなどにより、新たに支援制度を利用する生徒も含め、ハマ弁をいつでも気兼ねなく利用できる・利用しやすい環境づくりが進むものとする。この点、保護者の自由意見欄では、「ハマ弁を全員で食べる日があると良い」との意見が多くみられた（図表 20-1）ことから、保護者の意見にも沿うことになるものとする。

なお、当日注文については、実際に生徒の約4割、教職員の約5割が使用し、利便性の評価も高く、ハマ弁を利用しない理由からも分かるとおり、一定のニーズと効果があることから、早期に全校展開することが効果的であると言える。

5 今後のアンケートについて

今回のアンケート調査は、モニター校の中で実施したものではあるが、ハマ弁や昼食の現状を把握できただけでなく、ハマ弁の改善策を検討する際の参考となる貴重なデータとなった。改善の取組がハマ弁の喫食率にどうつながっていくのか把握するためにも定点観測的にアンケートを継続することも考えたい。

また、ハマ弁を利用しない理由の結果（図表 11-2）から、ハマ弁を利用していないにもかかわらず「おいしくない」と回答している生徒、保護者、教職員が一定数いることが分かったことや、自由意見欄の結果（図表 19-2,20-2,21-2）から、ハマ弁の改善を求める項目が多く見られたことなどから、ハマ弁に対するイメージや具体的なニーズを把握するための「ヒアリング調査」の実施も考えたい。

さらに、33年度以降のハマ弁事業及び中学校昼食の充実に向けて、31年度に検討することから、今回のアンケート結果をハマ弁の事業評価に活用するとともに、市民ニーズを把握するためのアンケート調査のベースとすることも考えたい。